

## 健康・観光旅行の地域実践における、大学・行政・企業との連携に関する考察

慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科

医療マネジメント専修1年

気候療法士

加納三代

### 1. 本研究会の背景

ヘルスツーリズム（健康・観光旅行）とは、地域資源を活用した健康プログラムを体験する旅である。地域の気候・地形・空気・温泉などを活用し、健康の増進・維持・回復をはかるこの旅行形態は、定年退職を迎えた団塊の世代や、2008年に施行された特定保健指導の対象となる40歳以上のニーズが見込まれるため、開発が急がれているが、成功事例は少ない。観光関係者にとって、ヘルスツーリズムの取りくみにくさは、地域資源のもつ健康効果を実証し、プログラム化し、安全に運営できる人材の不足が挙げられる。また、商業ベースに乗せるまで時間を要することと、初期投資の回収見込みがまだまだ厳しいため、行政と連携し、地域の共有財産として、地域資源の開発・活用を行うという共通理解が不可欠となる。ヘルスツーリズムは、大学（プログラム開発・人材育成）・観光関係者などの企業（実際の運営）・行政（両者のコーディネート）の連携により、成功の可能性が高まる分野だと考えられる。そこで、本研究会では、産官学連携による地域活性化策を、ヘルスツーリズムを事例として、考察することとした。

### 2. 研究会の内容

#### ① 学習会の開催

実施日：2008年11月6日

場所：健康マネジメント研究科キャンパス

ゲスト：財団法人 和歌山健康センター

木下藤寿氏

#### <内容>

熊野におけるヘルスツーリズムの取りくみは、平成17年より行っている。平成16年に世界遺産となった熊野古道を歩く「熊野古道健康ウォーキング」は、月に2～10回行っているイベントで、初級から上級まで難易度を選んで参加することができる。熊野の文化遺産と自然・四季を楽しむことができるので、リピーターも獲得できているほか、企業・健保組合の特定保健指導の場として、活用されたりし

ている。

ウォーキングプログラムを開始するにあたっては、熊野古道ウォーキングが及ぼす心身への健康効果について検証調査を行った

（2004年国土施策創発調査・和歌山県、和歌山県立医科大学、和歌山大学、日本福祉大学、

（財）和歌山健康センターの産官学共同）。

熊野古道の健康への影響を検証するため、平地公園でのウォーキングを対照群とした。その結果、1回のウォーキングで得られる効果として、免疫力の向上、ストレスの軽減、気分の改善効果、適度な脚筋力への刺激効果などが、熊野古道ウォーキングにおいて有意に見られた。併せて、習慣的なウォーキング調査では、2ヶ月の熊野古道を利用したトレーニング効果は、最大酸素摂取量の増加、大腿部筋断面積の増加、内臓脂肪の減少など、平地でのトレーニング以上の効果が見られた。

世界遺産登録にあたっては、熊野古道が、自然と人との深い関わりのなかで形成された、すぐれた「文化的景観」を持ち、現在まで良好な形で伝えられていることが高く評価された。そこで熊野古道ウォーキングにおいても、自然・文化景観を守り継承する姿勢を大切にしている。また、旅行者の中には、自然の怖さを知らず無防備な方がいたり、体調が急変する方が発生することもあることから、安全管理には十分な配慮を行った上で、健康・観光旅行を演出できる人材を育成している。

#### ② 視察・交流研修会

実施日：2008年11月19日～21日

場所：和歌山県・熊野

山形県上市市視察団との合同研修



行程：<1日目>

開始時刻	行程	終了時刻	備考
9:05	羽田発ー南紀白浜	10:20	飛行機
10:30	南紀白浜ー熊野本宮	11:30	車
12:00	山形県上市市視察団と合流／昼食	13:00	茶房「靖」
13:30	世界遺産レクチャーおよび質疑応答	14:30	県担当者
15:00	古道ウォーク（ショートコース）3km	17:00	セラピスト同行
17:00	川湯仙人風呂にて交互浴・外気浴体験	18:00	セラピスト同行
18:00	夕食	19:00	（川湯温泉泊）

<2日目>

開始時刻	行程	終了時刻	備考
9:00	健康チェック	9:30	世界遺産センター
10:30	古道ウォーク（メインコース）7km	15:00	セラピスト同行
1泊2日の場合			
15:30	とがの木茶屋（一方杉見学）	16:30	車
16:30	白浜散策（タラソセラピー）	18:30	
19:20	南紀白浜ー羽田空港	20:15	飛行機
2泊3日の場合			
15:30	川の古道	18:00	
18:30	地元奥熊野太鼓見学会	20:00	
20:00	地元民宿にて懇親会		湯の峰温泉泊

<3日目>

開始時刻	行程	終了時刻	備考
9:00	熊野古道ウォーク（ショートコース）3km	12:00	
13:00	湯の峰温泉視察	15:00	
15:00	とがの木茶屋（一方杉見学）	16:00	
16:00	白浜散策（タラソセラピー）	18:30	
19:20	南紀白浜ー羽田空港	20:15	

視察は、山形県上市市視察団との合同研修だったため、産官学連携による地域活性化の実情をうかがうことができ、有意義な時間となった。

#### <内容>

山形県上市市では、東北芸術工科大学と、地元商工観光業者の産官学連携で、内閣府の「地方の元気再生事業（国の100%補助）」を獲得して、ヘルスツーリズムに取り組んでいる。180m～1860mまで高度さのある、地形と気候、そして温泉などの自然資源を活用したプログラムは、気候療法の世界的権威・ミュンヘン大学のシュー教授がアドバイザーとなって開発した。上山の西山、葉山（以上180m～300mの里山）、坊平（1000m）の3コースについて、気候性地形療法に関する、ミュンヘン大学の正式な鑑定書をもっている。気分やブームによる一過性の地域振興ではなく、息の長い本物の新しい温泉保養地を目指す上山は、今回の気候・地形療法の確立と利活用を通じて、地域の自然と人材の育成、産業の振興に役立てたいと考えている。



#### ③ 意見交換会・まとめ

実施日：2008年12月11日

場所：信濃町キャンパス

#### <発表テーマ>

- ① ヨーロッパの保養地と熊野に学ぶ、健康をキーワードとした地域振興～大分県をフィールドとして、大学・教育機関に期待してきたこと。大学からみた地域～  
（医療マネジメント専修：加納三代）
- ② 地域資源活用型健康増進ウォーキングプログラムと食育に関する考察  
（スポーツマネジメント専修：下川友理子）
- ③ 地域資源活用型健康増進プログラムを活用した特定保健指導に関する考察  
（医療マネジメント専修：鶴野亮子）

#### 3.1 本研究会の結論と今後の課題

熊野古道の健康効果を実証するために、産官学連携で行われた調査研究は、地道な努力の積み重ねに基づく成果だった。上市市の産官学連携によるヘルスツーリズムは、「まずは、地域住民が健康に」が合言葉で、長期的視野にたった取り組みをされようとしていることが伝わってきた。ヘルスツーリズムの成功事例は少ないと言われているが、それは多くの地域ではきっと、「そこまでは、やれない。そこまでやるヒトがいない」ということなのだろうと感じた。産官学連携による取り組みを成功させるかどうかを左右するのは、課題を共有しつつ、長期的視野にたつて、継続できるかどうかにあるのだと感じた。

ヘルスツーリズムは、地域資源を活用することで、お客さんに喜ばれ、地域の活性化と地域の継続性を追求できる、取り組みである。その取り組みは、大学だけでも、企業だけでも、行政だけでも、完結することができず、力を借りあうしかない。興味深いのは、三者が協力しあうしか実現の方法がない分野に、消費者ニーズが生じていたということである。ここで、消費者の側が、ヘルスツーリズムという市場を生じさせたのであり、その発展もまた消費者の意向が大きく反映されていくのだとなると、産官学の三者だけで考察を終えるのは、尚早である。今後は、消費者も加えた四者で、本テーマについて、再考すべきだと感じている。

#### 3.2 謝辞

（財）和歌山健康センター・熊野de健康ラボ  
世界遺産センター 山形県上市市  
東北芸術工科大学大学院 小関信行様